サギノー

今回は徳島市の姉妹都市であるミシガン州サギノー市を紹介したいと思います。サギノーは人口が約４．８万人でミシガンのロウアー半島の中央部に位置している都市です。サギノー市はフランケンマス市もジルウォーキー市も含まれているサギノー郡の一部です。探してみたら面白い場所と宝物が見つかるでしょう。

歴史

フランスからの宣教師が１７世紀にやって来た時、サギノーの住民はオジブウエー族などのネイティブアメリカンの人々でした。実は、サギノーの名前はオジブウエー語で「ソーク族が居たところ」という意味です。ソーク族というのはオジブウエーに追い出される前にサギノーの地域に住んでいたネイティブアメリカン達でした。他の説によると、サギノーという名前はオジブウエー語で「流れ出る」という解釈もあります。

１８１６年に毛皮の交易所が設立されて以来ヨーロッパから開拓者がどんどんサギノーに移住しました。国の発展と共に木材が重要品になりました。製材業がサギノーの主要産業の一つになり、木材を運搬するためにサギノー川が利用されました。一時、サギノーは「世界第一の製材業都市」として知られていま

したが、１９世紀の終わりに製材業は衰退しました。

ちなみに当時のサギノーは、「サギノー市」と「東サギノー」という二つの地域に分けられていました。１８８９年に二つの地域がやっと法律的に一つのサギノーになりました。

地理

ミシガンにある都市なのでサギノーはもちろん水とゆかりがあります。サギノー川をはじめとして、シアワシー川、ティタバワシー川などいくつかの川があります。また、サギノー湾は五大湖の一つのヒューロン湖の一部です。

さらに、約１万エーカー（約 40,468,564 m^2）に広がっている低地広葉樹林、沼、草原のあるシアワシー自然・野生動物保護地区というところもあります。（ところで、この地区は渡り鳥にとって大切な場所として指定され、カナダ雁やダイサギを見ることが出来ます。）

産業

昔は製材業が盛んな都市として知られていましたが、現在の主な産業は高度な製造やテクノロジーに変わりました。他のミシガンの都市と同じように、サギノーは自動車産業と歴史的な深い繋がりがあります。

また、農業も重要な産業の一つで、サギノー郡の約６４％の地域は農業のために利用されており、甘菜やとうもろこしの栽培が盛んです。もちろん、新鮮な作物を求めるならサギノーにあるファーマーズマーケットがお勧めです。

教育と国際交流

サギノーには大学が多くはありませんがサギノーバレー州立大学やデルタ大学などの大学があります。１９８１年からサギノーバレー州立大学は四国大学と提携し、交換留学、教員交流、共同研究などの様々な国際交流活動を行っています。

日本文化センターと茶室

１９６１年に徳島市とサギノーは姉妹都市提携を結びました。きっかけは徳島からの留学生がサギノー市に住んでいるホストファミリーと交流したことです。

１９７１年には友好庭園が造られました。庭園では石灯篭、竹造りの門、桜の木、涼亭、小川の上にある美しい橋などを観賞することができます。訪問者は自由に庭園を散策できますし、自然に囲まれている静かで穏やかな場所なのでゆったりとした時間を過ごす場所としてぴったりです。

１９８６年に両市の市民からの寄付のおかげで、両市の友好シンボルとして阿波鷺能庵（あわさぎのうあん）という茶室が設立されました。企画されたのは建築家のつとむ・たけなか氏でした。敷地は日方と米方で共用され、共同で管理されています。

茶室は現在も営業しており、ミシガンで日本の伝統的な茶道を体験できる場所となっています。それに、書道や折り紙といった日本文化に関する教室も時折行われています。日本文化センターのウエブサイトによると目的は「お茶を通して国際理解と平和を推進する」ということです。この阿波鷺能庵がアメリカの中で最も本格的な茶室の一つだと言われています。